

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
外国語での挨拶は難しい！
- 3 **中国語の学び方**
四声の学修法(二)
- 4 **中国語でどういう？**
窓を閉めてくれますか
- 5 **中国語と日本史**
明智光秀に見る原音主義と相対主義
- 6 **看图学谚语**
絵で見ることわざ(3)
- 8 **紛らわしい文法表現**
“不能V(O)”と“V不了(O)”
- 10 **ことば雑記**
半世紀前の中国語(二)
- 11 **読者の広場**
第100回試験に向けた意気込み
第100回中検への再挑戦
4級に挑戦
“活到老，学到老”

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事，写真，イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

外国語での挨拶は難しい！

日本中国語検定協会評議員・東京大学 楊 凱榮

外国語で挨拶することはやさしいようで、案外難しい。若いとき、通訳として駆け出しに中国からのお客さんを迎えた。その際に、招待側の日本人の方がいきなり「この間はどうも」という挨拶をした。どうにも訳しようがなく困り切ったという苦い経験をいまだに忘れられない。その後、二人のやり取りを聞くと、日本の方は数か月前に中国へ行って、中国の方に大変お世話になったらしい。その時のお礼の挨拶として「この間はお世話になりました」と言いたくてこのような挨拶をしたわけである。通訳の私にはこのような事情が分からなかったので、訳しようがなかった。「この間はどうも」というだけで、当事者同士だけ分かっている、実際には「この間どうもありがとうございました」、「この間どうも馳走様でした」、さらに「この間はどうもすみませんでした」などなど、さまざまな解釈が可能なのである。中国語にはこれに相当する万能な挨拶がないので、まさに通訳泣かせの挨拶である。

一般の日本語の挨拶はそれほど複雑ではなく、むしろ決まり文句のような表現を言えば済む場合が多いと思う。例えば、食事前は「いただきます」、食事後は「ご馳走様でした」、帰宅したときは「ただいま」、それに対して「お帰りなさい」、寝るときは「お休みなさい」、のように決まりきった挨拶をすることが多い。

翻って、中国語の挨拶はどうであろうか。“你好”、“再见”、“谢谢”のような挨拶は中国語を勉強しなくてもできる表現であるが、実際は中国人同士では、“你好”は毎日会うような人には使わない。中国語の挨拶表現では臨機応変が大事である。朝出かけていくのを見ると“出去啊？”や“上班啊？”などと言い、買い物でばったり会すると“买东西啊”、夜帰宅途中の人を見ると“回来啦”と言うように、その場の状況に応じて挨拶する。また食事の前も特にこれといった決まった挨拶もなく“先吃啦”と言ってもいいし、何も言わずに食べだしてもかまわない。食べ終わったあとも“吃饱了”と言ってもいいし、おいしかったと感想を述べても問題ない。寝るときも決まり文句がなく“早点儿休息吧”、“我先睡了”と言ったりする。

ことほどさように中国語の挨拶は日本語と比べて、その時々状況に応じて相手の行為を尋ねたり、自分の行為を伝えたりするような特徴があり、日本語から見れば、あまり挨拶らしくないのかもしれない。しかし、それがむしろ中国語らしい挨拶である。その意味で、次のような親族呼称や身分を使って相手に呼びかけをするのも挨拶として機能する。例えば、親が小さい子供を連れて外出した際、知り合いの大人の人にばったり出会ったら、親から子供に対して“叫人”と言うことがある。これは日本語では挨拶しなさいという意味である。このとき、子供が“你好”よりも、相手の年齢層から判断し、自分の親と同じような年齢の男性なら“叔叔”と呼び、女性なら“阿姨”と呼んで挨拶するのが普通であろう。またキャンパスなどで学生が先生を見かけたときは“～老师”とだけ呼ぶのも立派な挨拶である。

四声の学修法(二)

県立広島大学 侯 仁鋒

一声の高さは、どうしてもその把握に自信がない時は、日本語の「ラー」の感覚で発音すればよい。一声の発音が確立しないことには、二声、三声、四声は発音しようとしても始まらない。

[ステップ3] 二音節語の四声も型づくりで突破しよう。現代中国語常用8000語のうち、二音節語は71％、単音節語は26％、三音節語及びそれ以上の語は3％という具合であることから分かるように、二音節語の四声の習得は特に重要である。

この二音節語の四声パターンはわずか20しかないのである。これを型づくりとして一旦覚えておけば“一劳永逸”(一度苦労しておけば後は楽にできる)の効果がある。

以下の表のパターンをしっかりと身に付けると、つまり型が形成されていれば、同じパターンなら自然で正確に発音できるに違いない。

二音節語の四声練習表

番号	パターン	モデル	発音
1	1－1	一三，七一，天天开心	yīsān, qīyī, tiāntiānkāixīn
2	1－4	一二，三四，商店超市	yī'èr, sānsì, shāngdiàncāoshì
3	4－4	二四，二六，速度太快	èrsì, èrliù, sùdùtàikuài
4	4－1	二八，六八，坐车到家	èrbā, liùbā, zuòchēdàojiā
5	1－3	一五，一九，开始喝酒	yīwǔ, yījiǔ, kāishǐhējiǔ
6	3－1	五八，九八，你听我说	wǔbā, jiǔbā, nǐtīngwǒshuō
7	4－2	二十，四十，复习课文	èrshí, sìshí, fùxíkèwén
8	2－4	十二，十六，不要迟到	shí'èr, shíliù, búyàoóchídào
9	1－2	三十，七十，欢迎光临	sānshí, qīshí, huānyíngguānglín
10	2－1	十一，十三，昨天明天	shíyī, shísān, zuótiānmíngtiān
11	4－3	二九，四九，下雨下雪	èrjiǔ, sìjiǔ, xiàyǔxiàxuě
12	3－4	五六，九六，有菜有肉	wǔliù, jiǔliù, yǒucàiyǒuròu
13	2－2	时时，常常，韩国同学	shíshí, chángcháng, hánguótóngxué
14	3－2	五十，九十，早晨起床	wǔshí, jiǔshí, zǎochénqǐchuáng
15	2－3	十五，十九，没有啤酒	shíwǔ, shíjiǔ, méiyǒupíjiǔ
16	3－3	五百，九百，你好你早	wúbǎi, jiǔbǎi, nǐhǎonǐzǎo
17	1－0	他的，哥哥	tāde, gēge
18	2－0	一个，朋友	yíge, péngyou
19	3－0	晚上，走了	wǎnshang, zǒule
20	4－0	告诉，爸爸	gàosu, bàba

《外国人汉语发音训练》(仇鑫奕编著 高等教育出版社 2010) により作成

窓を閉めてくれますか

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

教室で「窓を閉めてくれますか」を訳してもらおうと、よく“你给我关窗吗？”となってしまう。日本語でよく省かれる二人称主語と「～てくれる」の訳“给我”もついている直訳であり、ほぼ完璧だが、日本語と中国語は意味が合っていない。

二つの表現の違いは聞き手の反応と行動で分かる。「窓を閉めてくれますか」と聞けば、大体の人は「はい」と応じて、すぐに窓を閉める行動に移るが、“你给我关窗吗？”と聞くと、“好啊”と応じることがあってもすぐに窓を閉めに行ってくれるとは限らない。すなわち「窓を閉めてくれますか」は確実に依頼の表現として受け取られるが、“你给我关窗吗？”は「閉めてもらいたい」というより、あくまでも「閉めてくれる」か「閉めてくれないか」の確認である。

では「窓を閉めてくれますか」が持つ依頼の力に相当する中国語はどのようにいうのか。多くのバリエーションがあるが、まず英語の“Can you ~?”と同じ発想の“你可以～一下(～)吗？”(～することができますか)が挙げられる。

(1)你(您)可以(给我)关一下窗吗？(窓を(ちょっと)閉めてくれますか。)

(2)你们可以进来一下吗？(君たち、(ちょっと)入ってくれますか。)

“一下”は依頼のラベルのようなもので、依頼の表現によく付けられる。ちなみに次の(3)を「～してもらいたい」の表現として受け取られることもあるが、依頼の表現ではなく、聞き手に対してやや強くあることをするように命令する表現だ。

(3)你给我关一下窗！(窓をちょっと閉めてくれ！)

ところで、「窓を閉めてくれますか」より丁寧な表現なら「窓を閉めてくれませんか」があるが、それには中国語では“～，好吗？”で対応できる。“好吗？”(よいか)は聞き手の意向を伺うということで丁寧さが醸し出されるのである。

(4)你(您)再说一遍，好吗？(もう一度言ってくれないか。)

(5)你们不要闹了，好吗？(君たち、もう騒がないでくれないか。)

(5)は明らかに騒いでいるほうが迷惑をかけているのに、“～，好吗？”で言うときと哀願しているニュアンスが伝わってくる。それだけ“～，好吗？”は腰の低い表現である。この“～，好吗？”よりも丁重でかつ丁寧に表現しようとするれば、お馴染みの“请”を使う“请你(您)～，好吗？”や“能不能请你(您)～？”等がある。

(6)请你(您)明天再来办手续，好吗？(明日また手続きに来てもらえますか。)

(7)能不能请你(您)在这里签一下字？(ここにサインしてもらえませんか。)

中国語と日本語は依頼の力を持つ表現の形式が異なっている。しかし関係が近い場合や緊急性がある場合はよりストレートで丁寧さが低い表現が用いられるが、反対に関係が遠い場合や相手により負担がかかると思われることを依頼する場合などはより丁寧な言い方を用いる、というコミュニケーションのルールは同じである。

明智光秀に見る原音主義と相対主義

日本中国語検定協会評議員・明治大学 加藤 徹

2020年のNHK大河ドラマの主人公は明智光秀である。光秀には謎が多い。本能寺の変を起こした動機は不明。彼の享年も不明で、五十五歳説から七十歳説までまちまちである。

清王朝が国家事業として編纂を行い1739年に完成した『明史』日本伝の本能寺の変のくだりも、謎に満ちている。

有参謀阿奇支者，得罪信長，命秀吉统兵讨之。俄信长为其下明智所杀，秀吉方攻灭阿奇支，闻变，与部将行长等乘胜还兵诛之，威名益振。

参謀で「阿奇支」という者が信長の勘気をこうむった。信長は秀吉に命じ、兵を率いて追討させた。突然、信長は部下の「明智」に殺された。秀吉はちょうど「阿奇支」を攻め滅ぼしたところだったが、変を聞き、武将の行長らとともに勝ちに乗じて「明智」を誅殺し、その威名はますます振るった。……

文中の「変」は本能寺の変を指すのだろう。が、ちょっとおかしい。

秀吉が攻めたのは毛利だ。毛利は「参謀」ではなかった。攻め滅ぼされてもいない。そもそも「阿奇支」とは何者か。安芸氏に当てる説もあるが、安芸氏は土佐の国人領主で、秀吉と戦ったことはない。

たぶん「阿奇支」は「明智」の原音「アケチ」を漢字に写したものに違いない。日本人からの聞き取り資料ではアケチ、日本から入手した文字資料では明智とあったのを、中国人は二人の人物だと勘違いしたらしい。

中国人が明智を「阿奇支」と呼び、日本人が魯迅を「ルーシェン」と呼ぶのは、原音主義である。中国人が明智を“Míngzhì”と呼び、日本人が魯迅を「ろじん」と呼ぶのは、相対主義である。それぞれ一長一短で、今も統一されていない。

日本の自動車メーカーの中国名も、マツダとSUBARUは原音主義でそれぞれ“马自达”と“斯巴鲁”だが、トヨタとホンダは相対主義で“丰田”と“本田”だ。日産は“日产”と“尼桑”を両用する。

原音主義の特長は、耳で聞いてわかりやすいことだ。タレントでモデルの「ローラ」氏は、中国語ではRolaである。漢字を使わない日本語名は、原音主義が多い。しかし、これにも落とし穴がある。

学生時代、京劇の伴奏者と話していて「私は昔“Zuǒtián Yǎzhì”と仕事をしたことがある」と言われ、とっさにわからなかったことがある。日本の有名な音楽家らしい。紙に書いてもらおうと「佐田雅志」だった。しばらく考えて、やっとわかった。「さだまさし」氏だった。

私は学生時代、原音主義の中国語名を自分で作って、使ったことがある。“磕头偷禄”。ペコペコ頭を下げて禄を盗む、の意。就職後は、シャレにならないのでやめた。

絵で見ることわざ(3)

絵・張 恢

文・『中国語の環』編集室



打是疼，骂是爱

dǎ shì téng, mà shì ài

叩くのも叱るのも愛すればこそ。目上の者が目下の者に、また夫婦間で夫が妻に、妻が夫に厳しく接する態度についていう。“打是惜，骂是怜”とも。



大人不记小人过

dà rén bù jì xiǎo rén guò

年長者は年少者の、また上司は部下の失敗や過ちを責めない。許しを乞う場面でよく使われる。“不记”は“不责”“不见”などとも。



大树底下好乘凉

dà shù dǐ xià hǎo chéng liáng

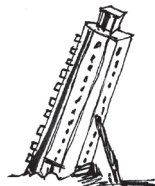
大きな木の下は涼みやすい；寄らば大樹の蔭。頼る相手を選ぶならば、勢力の大きな者がよい。



大难不死，必有后福

dà nán bù sǐ, bì yǒu hòu fú

大きな災難で命拾いすれば、後日きつと福運に恵まれる。後半は“必有大福”“必有后禄”などとも。



大厦将倾，独木难支

dà shà jiāng qīng, dú mù nán zhī

大きな建物が倒れかかっている時は、一本の木では支えきれない。大勢が決しかけている時は、個人の力ではどうしようもない。



大丈夫一言，万金不易

dà zhàng fū yī yán, wàn jīn bù yì

立派な男子はたとえ万金を積まれてもいったん言ったことを取り消すようなことはない。武士に二言なし。



大丈夫有泪不轻弹

dàzhàngfū yǒu lèi bù qīng tán

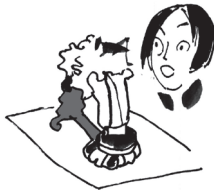
男子たる者軽々しく涙を拭いはいしない；立派な男子はどんなに苦しくても人前で涙を見せたりはいしない。“大丈夫”は“男儿”（nán'ér）とも。



当局者迷，旁观者清

dāngjúzhě mí, pángguānzhě qīng

他人の碁を傍で見ていると、打っている本人よりも先が読める；第三者の方が当事者よりも客観的な判断ができる。傍目八目（おかめはちもく）。



耳闻不如眼见

ěr wén bù rú yǎn jiàn

百聞は一見に如かず；何度も人から聞くよりも、実際に自分の目で確かめてみたほうがよい。『漢書』趙充国伝に見える語。



单丝不成线，孤木不成林

dānsī bù chéng xiàn, gūmù bù chéng lín

一筋の糸では紐にすることはできない，一本の木では林にならない；何事も独力では成し遂げることはできない。



多一事不如少一事

duō yī shì bù rú shǎo yī shì

余計な手出しをするよりも控えめにしたほうがよい；かかわりを持たなければ災いを招くこともない。触らぬ神に祟りなし。



二虎相斗，必有一伤

èr hǔ xiāng dòu, bì yǒu yī shāng

二匹の虎が闘えば必ずどちらか一方が傷つく；二人の英雄が闘えば必ずどちらか一方が倒れる。兩虎相闘わば勢い俱（とも）には生きず。

“不能V(O)”と“V不了(O)”

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

前回は意味上における“能/不能V(O)”と“V得/不了(O)”の区別を明らかにしました。V(O)が実現できるかどうかは実現できる条件が備わっているかどうかによります。“能/不能V(O)”と“V得/不了(O)”は両方とも能力条件、外的な条件が備わっているかを表すため、両者は交換できる用例もこれを前提としています。一方、“能/不能V(O)”は主体の意思条件が備わっていることも表すため、この意味で“V得/不了(O)”を用いることができません。

この結論によって、“能V(O)”と“V得了(O)”を使い分けることができますが、“不能V(O)”と“V不了(O)”を使い分けることができません。なぜなら、能力条件、外的な条件が備わっていないため、V(O)が実現できないことを表す場合、両者が交換できない用例もあるからです。これらは意味上において同じであるが、語用上においては相違点があります。今回は意味上において同じである“不能V(O)”と“V不了(O)”の語用上における相違点を探てみます。

ケース1：“V不了(O)”を“不能V(O)”に変換できません。

(1)这么好的字，我写不了（*不能写）。

（こんなに綺麗な字は私には書けません。）

(2)这个问题太难了，我回答不了（*不能回答）。

（この問題はあまりにも難しく、私は答えられません。）

(3)如果还想要更高级的东西，在这颗星球上就满足不了（*不能满足）了。

（さらに高級なものを求めたいなら、この地球上ではもう満足させられない。）

“V不了(O)”は(1)(2)では能力条件、(3)では外的な条件が備わっていないことを表しています。しかし、これらの“V不了(O)”を“不能V(O)”に変換することができません。各例文の前句で示したように、これらの場合、“V不了(O)”は、単純にV(O)が実現できないと言っているのではなく、その高いレベルまでのV(O)が実現できないと言っています。(1)では、私は字が書けないのではなく、あれほど綺麗な字は書けないと言っています。他も同じような説明ができます。

ケース2：動詞の特性によって“不能V(O)”と“V不了(O)”が交換できません。

(4)不要让他当校长。他是外行，不能领导（*领导不了）老师。

（彼を校長に登用しないでください。彼は素人なので、教員を指導することができません。）

(5)让职工服务于顾客，自己不服务，这样的领导是领导不了（*不能领导）人的。

（社員には顧客にサービス精神をもって接させるが、自分はそうしない。このような上司は人を指導することができません。）

例(4)も(5)も動作主には能力条件が備わっていないため、V(O)が実現できないこ

とを表しますが、両者は交換できません。これは“领导”という動詞の特徴に関わっています。普通の動詞とは違い、“领导”は行為発生と行為目的の実現を二段階に分けることができます。(1)では、彼が素人ですから、“领导老师”という行為が発生できないことを示し、“不能领导”を用います。(2)では“领导”という行為はすでに発生しているが、“领导”を受ける人に受け入れられないため、“领导”という行為の目的が実現できないことを示し、“领导不了”を用います。つまり、Vが“领导”類動詞を用いる際、動作の発生ができないことを表す場合は“不能V(O)”を、動作の発生はできても行為目的が実現できないことを表す場合は“V不了(O)”を用います。“领导”類動詞には“教育、统治、管、管教、说服、欺骗、讨好、收买、改变、阻挡、劝阻”などもあります。

ケース3：意味要素によって“不能V(O)”と“V不了(O)”が交換できません。

(6)这两天她感冒了，什么都干不了(○不能干)。

(ここ2,3日彼女は風邪を引いて何もやれません。)

(7)这两天她感冒了，想干也干不了(*不能干)。

(ここ2,3日彼女は風邪を引いてやりたくてもやれません。)

彼女が風邪を引いたため、外的な条件が備わっていないから、(6)では“干不了”も“不能干”も用いることができます。しかし、(7)では“干不了”の前に“想干”という意味が明確にされているから、“不能干”に変換することができません。つまり、「～したいが、能力条件や外的な条件が備わっていないからV(O)が実現できない」という文脈で“V不了(O)”しか用いることができません。“想V也V不了”は典型的なパターンですが、コンテキストによって示した場合も同様です。反対に「～したくもなく、能力条件や外的な条件が備わっていないからV(O)が実現できない」という文脈では、“不能V(O)”しか用いることができません。たとえば、

(8)他提出新的方案，负责人说：“原设计方案已定，不能改变”。

(彼は新しい案を出したが、責任者は「原設計案はすでに決定されているため、変更できない」と言った。)

例(8)では、“原设计方案已定”という外的な条件によって、変更することができないと言います。“不能改变”には、“负责人”が変更したくもないという意味も含まれています。

このような“不能V(O)”と“V不了(O)”のニュアンスはなかなか把握しにくいです。たとえば、

(9)小姐，我是你的婢女，不管小姐怎么待我，这个身份不能改变。

(お嬢さん、私はお嬢さんの女中です。お嬢さんが私にどんな待遇を与えてくださっても、この身分は変わることはありません。)

“小姐”が身分の違いを忘れるほど“婢女”にやさしくしていますが、“婢女”はその待遇を受け入れられないから、(9)という発話をし、“不能改变”で身分の違いという客観的な事実を強調したのです。もし、“改变不了”に変換すると、“婢女”は身分を変えたいという気持ちも含意されます。

半世紀前の中国語(二)

日本中国語検定協会理事 上野 恵司

前はわたくしが半世紀以上の昔に、『小学語文』をテキストに倉石武四郎先生に習った中国語の2音節からなる名詞について、当時は第2音節が軽声に読まれていたものの多くが、今日では非軽声に読まれていることを見てきた。

同様のことは、

帮助 工作 经过 看见 咳嗽 夸奖 离开 盼望 批评 听见 希望 以为 迎接 愿意
照看 准备

などの動詞類や、

方便 干净 合适 喜欢 容易 整齐

などの形容詞類、その他

能够 大家 自己 这些 那些 这样 那样 反正 更加 究竟 马上 已经 但是 可是
などの諸語についても指摘することができる。

軽声・非軽声以外の発音の異同では感嘆文に用いられる“多”“多么”が一律にduó、duómeであること、“誰”がshéiではなくshuíであることなどが目立っていた。おしまいに数字の読み方について触れておきたい。

数字の“一”の声調が次に来る音節の声調によって第2声に読まれたり第4声に読まれたりすることは、入門の段階で必ず習う。ところが、“七”と“八”にも同じような変化が見られたという、今日ではもう「えっ」と驚く人が多いのではないだろうか。

かつての入門テキストは多くがDì yī kè (第一課), Dì qī kè (第七課), Dì bā kè (第八課)と、“一”だけではなしに“七”“八”ともに第2声であった。

倉石先生の『岩波中国語辞典』はわたくしが中国語を習い始めた1963年の秋に出た辞典であるが、そのbā (八)の項に「次に4声の音節がきたときはbáとなる」と注記されていて、例としてbá suì (八岁)が挙げられている。qī (七)の項にも同様の注記があり、qī jiàn yīshang (七件衣裳)が例に挙げられている。

『岩波中国語辞典』だけでなく、本家本元の《現代汉语词典》も2005年5月増補本(第4版)までは、例えば“八”の項に“在去声字前念阳平(bá)”(第4声の字の前では第2声báに読む)と注記して“八岁”“八次”を例に挙げている。

これを『小学語文』(日中学院、1973年9月第5刷)について見ると、bā suì (八岁), sān yuè èrshíqī rì (三月二十七日), shíyī yuè qī rì (十一月七日)などが出てくる。このうち、“十一月”“七日”“二十七日”はいずれも序数であるにもかかわらず変調していることが注目される。

“一”についても、上の“第一課”“十一月”のほか、“第一步”“第一次”“第一句”などの“一”が、いずれも第2声yíに読まれている。

第100回試験に向けた意気込み

河野 将佳

中国語学習は、仕事で北京へ旅行した時に「もし言葉が通じればもっと楽しめるのでは」と思ったのがきっかけです。帰国後、留学生から中国語を教えてもらい、会話はできるようになりました。その後上海へ旅行した時も何ら支障をきたすことなく現地の方々と会話することができました。

中国人と話すときに日本人なのかと疑われるほどにまで発音は鍛えられました。そこで、客観的な評価がどれくらいのものであるかを知りたくて中検を受験してみました。

準4級から順番に受験していき、どこまで通用するか……。結果は散々なものでした。外国語の試験では、リスニングが対面でないことの難しさがよく言われておりますが、中国語もやはり難しいと痛感。会話だけでは試験は当然受かるわけもなく、そもそもピンインは覚えてないし文法も理解できていない。これでは中国語ができるとは言い難く、とても悔しい思いをしました。

それから5年以上が経過し、第100回ということもあり、改めて中検にチャレンジしてみます！とりあえず、3級あたりでしょうか。

第100回中検への再挑戦

本多 正吉

中検が今年3月の試験で第100回という大きな節目を迎えるという。歴史を重ねた中検に改めて感慨を覚えるとともに関係者の多大な尽力に敬意を表したい。

私自身の中検受験は、手元に保存している「合否通知」と「合格証明書」を見ると、初めての受験は2008年3月の第64回中検であった。3級と4級を同時に受けて、4級のみ合格した。3級は第65回と第67回から第69回まで5回受験して2009年11月にやっと合格できた。

2級は2010年3月第70回から断続的に2017年6月第92回まで延べ12回すべて不合格に終わり、「2級の壁」の厚さを痛感した。しかし、10年以上に及ぶ中検受験を通した中国語の学習は、自分自身のモチベーションアップとともに何度かの中国旅行などの会話の際に決して無駄ではなかったと実感している。

ちょうど今年2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される。私は都市ボランティア（シティキャスト）に応募している。希望勤務先の羽田空港での道案内などで中国語の「おもてなし」を実現すべく、毎週1回孔子学院で中国語を再び学び始めた。

記念すべき第100回の中検2級試験への再挑戦で久しぶりの「合格証明書」を手にするために中国語学習に取り組んでいる毎日である。

4 級に挑戦

海野 祥子

第100回中検では、4 級に挑戦します。私は独学で中国語を勉強しており、第98 回中検で準 4 級に合格しました。独学でしたので学習の進め方や継続などに困りながらも、受験したいという意志だけは強くありました。

中検のホームページで講習会の存在を知り、受講しました。講習会での大塚秀明先生との出会いが、中国語学習にあたって困っていたことがたくさん氷解していったように思います。もし関東エリアにお住まいで、同じように学習に悩んでおられる方は、ぜひ一度参加されてみてほしいです。

また、私の住まいは訪日の中国人の方が多く、何度か駅の券売機で切符の買い方を尋ねられました。そのような状況ですので、勉強した中国語を実際に話していきたいとも思います。ゆくゆくは訪中して、私が大好きな書の展示などを見にいきたいです。

まだまだ中国語学習の道のりは半ばにも満ちてはいませんが、様々な機会に恵まれた環境にいることは確かです。このまま、そしてこれまで以上に、勉強を続けていきたいと気を引き締めている次第です。

“活到老，学到老”

尼崎武庫川園 山口 寛

2014年秋、私はついに60歳で定年退職を迎えた。一つの束縛から解放され、ネットで動画を見たりゲームをしたりもしたが、こんな生活ではだめだ、何か有益なことに取り組もうと思いついたのが、「中国語学習」だった。別に英語でもよかったし、語学や学問である必要もなかったが、たまたま隣の大国の人々が話す言葉で、身に付けて損はないと思い始めた。

勉強を始めてしばらくしたころ、街で中国人から片言の英語で道を聞かれた。私はその人が中国人だと思ったので、下手な中国語で返事をする通じだし、相手もたいそう喜んでくれ、その時から本格的に学習に打ち込むようになった。

その後検定試験があるということを知り、3 級までは比較的早く合格、その後時間はかかったが第98回にやっと2 級に合格した。残された時間は多くはないし、若い人には無理だよと笑われるかもしれないが、準 1 級の合格を目指して第100回にも挑戦するつもりだ。

私の連れ合いが、一度カシュガルのほうに行ってみたいと言っているので、「任しとけ。必ず連れて行ってペラペラ人と話しながら案内をしてやる」と約束してしまったので、もう後に引けない。70歳になるまでには何とか一緒に旅したいと思っている。その夢の実現が日々のモチベーションを維持する力になっている。“活到老，学到老”だ。